

減量・資源化状況の主な要因と対策

※ 平成 29 年度については、改定前の計画を運用しているため、改定前の計画の数値で評価しています。

彦根市一般廃棄物処理基本計画

ごみ処理編 第 5 章 減量・資源化目標 (p12～p17)

目標 A : ごみ等排出量を減らす

ごみ等排出量(集団回収量を含む)を 37,000 t にする。

1 人 1 日当たりのごみ等排出量が 900 g を下回る数値にする。

平成 29 年度進捗管理値に対する進捗状況 **199%**

平成 28 年度と比較して、ごみ等排出量は減少しており、平成 29 年度進捗管理値および平成 34 年度の目標値を達成している。

主な要因

燃やすごみ量の減少 $\Delta 534$ t

(事業系燃やすごみ許可業者搬入量の減少 $\Delta 144$ t)

埋立ごみ量の減少 $\Delta 70$ t

びん類の減少 $\Delta 33$ t

ペットボトルの減少 $\Delta 32$ t

集団回収量の減少 $\Delta 197$ t

対策

清掃センターへ搬入される廃棄物に対する排出元の確認や搬入物検査を実施し、適正な排出を指導する。

家庭系ごみに加え、事業系ごみの排出状況を確認するために、燃やすごみ組成調査を実施する。

食品ロスを削減するため、チラシの作成や広報での啓発を継続するとともに、滋賀県の「三方よし!!でフードエコプロジェクト」に参加し、推奨店制度の周知や推奨店の取組紹介を行い、食品ロス削減への意識を高める。

目標 B : 再生利用率を上げる

再生利用率(集団回収量を含めたりサイクル率)を 20%にする。

平成 29 年度進捗管理値に対する進捗状況 **63%**

平成 28 年度と比較して、再生利用率は、やや下がっており、平成 29 年度の進捗管理値も達成できていない。

主な要因

集団回収量の減少 $\Delta 197$ t

店舗回収量は、把握しているだけでも増加しており、市内から出される古紙等資源物の回収量が減少しているものではないと考えている。

対策

雑がみ類がリサイクル可能なことの周知啓発と雑がみ類の分かりやすい分別や排出方法の再検討を行い、雑がみ類が資源回収に流れるようにする。

目標 C : 最終処分量を減らす

最終処分量を 5,200 t にする。

平成 29 年度進捗管理値に対する進捗状況 **202%**

平成 28 年度と比較して、最終処分量は減少しており、平成 29 年度の進捗管理値および平成 34 年度の目標値を達成している。

主な要因

埋立ごみの中間処理（選別）により、直接埋め立てられるごみの量が減少している。

埋立ごみ最終処分量 $\Delta 18$ t

焼却量が減少していることに伴い、焼却灰の量が減少している。

焼却灰等最終処分量 $\Delta 14$ t

対策

埋立ごみの中間処理（選別）を継続するとともに、家庭から排出される水銀含有製品については、適正な処理と分別回収を周知する。

目標 D : 焼却量を減らす

焼却量を 28,100 t にする。

平成 29 年度進捗管理値に対する進捗状況 **133%**

平成 28 年度と比較して、焼却量は減少しており、平成 29 年度の進捗管理値を達成している。

主な要因

事業系一般廃棄物の収集運搬許可業者に対する搬入物検査の継続と草木・剪定枝の資源化など燃やすごみの減量に向けた取組により焼却量が減少している。

焼却量 $\Delta 412$ t

対策

清掃センターへ搬入される廃棄物に対する排出元の確認や搬入物検査を実施し、適正な排出を指導する。

食品ロスについて、庁内、市民に向けたチラシや広報での啓発を行うとともに、滋賀県の「三方よしフードエコ推奨店制度」の周知を通じて、事業者

の取組を紹介し、食品ロス量の削減を推進する。

店舗回収の利用促進も含め、雑がみ類の回収品目や回収方法を分かりやすいものにし、紙ごみの燃やされる量の削減を推進する。

彦根市一般廃棄物処理基本計画

地域行動計画編 重点行動のテーマと行動目標 (p43～p45)

テーマ1 循環型社会をめざして

～ごみの発生抑制、再使用を推進しましょう～

目標：平成34年度の市民1人1日当たりのごみ等排出量を900g未満にする。(家庭系：622g 事業系：277g)

平成29年度進捗管理値に対する進捗状況 **202%**

平成28年度と比較して1人1日当たりのごみ等排出量は減少しており、平成29年度の進捗管理値および平成34年度の目標値を達成している。

主な要因

燃やすごみ量の減少 $\Delta 534$ t

目標：平成34年度の市民1人1日当たりの生ごみ排出量を320g未満にする。(家庭系214g 事業系106g)

平成29年度進捗管理値に対する進捗状況 **142%**

平成28年度と比較して、1人1日当たりの生ごみ排出量は、減少しており、平成29年度の進捗管理値を達成している。

主な要因

生ごみ処理機購入補助金や簡易生ごみ処理普及事業による生ごみ量の削減に加え、食品ロスの削減に係る啓発を実施した。

テーマ2 循環型社会をめざして ～再生利用を推進しましょう～

目標：平成34年度の古紙の資源回収量を5,000tにする。

(集団回収量 2,750 t 行政回収量 1,000 t 店舗回収量 1,250 t)

平成29年度進捗管理値に対する進捗状況 **21%**

平成28年度と比較して、古紙の回収量は減少しており、平成29年度の進捗管理値も達成できていない。

主な要因

集団回収量が、平成28年度に比べて197t減少している。

行政回収量は14t、店舗回収量は把握可能な分で75t、平成28年度に比べて増えているが、集団回収量の減少分より少ない。

テーマ3 地域力の再生をめざして ～環境コミュニケーションの醸成と意識改革をすすめましょう～

目標：平成34年度の出前講座等の延べ参加者数を3,000人にする。

平成29年度進捗管理値に対する進捗状況 **102%**

平成28年度と比較して、出前講座等の参加人数は、減少しているが、平成29年度の進捗管理値は達成している。

主な要因

滋賀県立大学の湖風夏祭や湖風祭、食育イベントにおいて、ごみの現状などのパネル展示や説明、生ごみの堆肥化に係るボカシづくりの実演などを行い、ごみの減量の啓発を図った。

清掃センターや生活環境課でごみに関する出前講座を実施した。